

歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

(第 25 期・第 2 回)

議事要旨

1. 日 時 令和 3 年 (2021) 3 月 13 日 (土) 10 時 00 分～12 時 00 分
2. 会 場 オンライン (Zoom ミーティングを利用)
3. 出席者 石居人也、大友一雄、大橋幸泰、奥村弘、長志珠絵、倉員正江、栗田禎子、久留島典子、佐野正博、高埜利彦、柳原敏昭、若尾政希 (委員長)

4. 議 題

(1) 国立公文書館アーキビスト認証について

若尾委員長より、1 月 8 日に第 1 回アーキビスト認証の結果が国立公文書館から発表され、248 名が申請し、190 名 (男性 115、女性 75) が認証されたとの報告があった。

次いで認証にも関わった大友委員より、①認証制度への関心が高く、文書館だけでなく、様々な機関に所属する方が認証を必要としていることがわかった、②申請者がアーカイブズ学を十分に学んでいることが肝要であり、認証制度と連動した教育の強化も課題となる、③国立公文書館と連携をとりながら、認証を国家資格に高めていく方策を追求する必要がある、との発言があった。

(2) 日本学術会議資料の保存・管理と公開に関して

若尾委員長より、3 月 10 日開催の歴史認識・歴史教育分科会で、日本学術会議創立 70 周年記念展示および第 25 期本分科会報告「日本学術会議資料の保存・管理と公開に向けて」に協力された小沼通二氏による報告があったことが紹介された。また、史学委員会として学術会議事務局と学術会議資料の保全や未発見分の検索について協議していくとの発言があった。

(3) 日本歴史学協会との共催シンポジウムについて

若尾委員長より、6月26日に開催予定の公開シンポジウム「東日本大震災10年と史料保存—その取組と未来への継承—」（第26回史料保存利用問題シンポジウム）について、学術会議会長宛に「講演会、シンポジウム等提案書」を差し出した旨、報告があった。「提案書」については、次のような意見が出された。

①「開催趣旨」に災害の記憶をどのようにのこし、後世に伝えるかという課題も取り上げることが明記した方がよい。

②災害の記憶をどのようにのこし、後世に伝えるかという課題に関しては、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」の設立経緯や評価なども踏まえたコメントがあった方がよい。

③報告者・コメンテーターなどのジェンダーバランスに配慮した方がよい。

以上を踏まえて、企画案および「提案書」を修正することとした。

(4) 被災史料の救済・保存をめぐって

奥村委員より、「大規模自然災害と地域歴史遺産—阪神・淡路大震災から26年、歴史資料ネットワークの歩みから—」と題する報告があった。

この報告に対して以下のような議論があった。

- 1) 日本における歴史資料の残存状況と今後の保存形態
- 2) 国の文化財防災のための体制整備と今後の展望
- 3) 東京都における災害発生時の文化財への対応
- 4) アーキビスト認証制度、文書館制度における災害対応の位置付け

(5) その他

今回の分科会は、2021年6月26日開催の公開シンポジウム終了後に開催（予定）。